



2021年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年10月30日

上場会社名 エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社
 コード番号 8242 URL <http://www.h2o-retailing.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 荒木 直也

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 渡邊 学

TEL 06-6365-8120

四半期報告書提出予定日 2020年11月12日

配当支払開始予定日

2020年11月30日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	335,614	25.5	4,405		4,400		10,102	
2020年3月期第2四半期	450,710	1.4	6,320	3.6	6,574	1.9	1,463	950.0

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 1,538百万円 (%) 2020年3月期第2四半期 2,696百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	81.69	
2020年3月期第2四半期	11.84	11.76

(注) 2021年3月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	595,909	240,311	40.1
2020年3月期	586,904	244,634	41.5

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 239,051百万円 2020年3月期 243,317百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		20.00		20.00	40.00
2021年3月期		12.50			
2021年3月期(予想)				12.50	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

第2四半期末の配当および期末の配当予想につきましては、本日(2020年10月30日)公表いたしました「業績予想の修正、剰余金の配当(中間配当)及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	730,000	18.6	10,000		10,000		22,000		177.90

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

業績予想につきましては、本日(2020年10月30日)公表いたしました「業績予想の修正、剰余金の配当(中間配当)及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 有 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期2Q	125,201,396 株	2020年3月期	125,201,396 株
期末自己株式数	2021年3月期2Q	1,523,520 株	2020年3月期	1,558,219 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期2Q	123,664,803 株	2020年3月期2Q	123,609,468 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 本資料に記載の連結業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.6「5. 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績の状況	2
2. 貸借対照表の状況	4
3. 設備投資の状況	4
4. キャッシュ・フローの状況	5
5. 今後の見通し	6
6. 四半期連結財務諸表及び主な注記	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	12
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	14
(継続企業の前提に関する注記)	14
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	14
(会計方針の変更)	14
(追加情報)	14
(セグメント情報)	15
7. 補足情報	17

1. 経営成績の状況

(百万円)

	18/9累計	19/9累計	金額	20/9累計	
	金額	金額		前年比	増減
百貨店事業	228,990	239,670	138,187	57.7%	△ 101,483
食品事業	183,911	178,035	141,806	79.7%	△ 36,229
不動産事業	4,569	4,152	33,267	801.1%	+ 29,114
その他事業	26,937	28,851	22,354	77.5%	△ 6,497
売上高	444,408	450,710	335,614	74.5%	△ 115,095
百貨店事業	5,619	6,356	△ 3,456	-	△ 9,813
食品事業	△ 1,008	△ 1,701	2,902	-	+ 4,604
不動産事業	2,299	2,176	△ 318	-	△ 2,495
その他事業	3,773	3,264	△ 1,428	-	△ 4,693
調整額	△ 4,583	△ 3,776	△ 2,103	-	+ 1,672
営業利益	6,100	6,320	△ 4,405	-	△ 10,725
経常利益	6,449	6,574	△ 4,400	-	△ 10,974
特別利益	267	857	2,394	279.4%	+ 1,537
特別損失	4,317	2,630	11,468	436.0%	+ 8,838
親会社株主に帰属する 四半期純利益	139	1,463	△ 10,102	-	△ 11,565

※セグメント別売上高は外部顧客への売上高

▶売上高

当期の当社グループの連結業績は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言の発令やその後の外出自粛により、百貨店事業を中心として大きな影響を受け、売上高は335,614百万円(前期比74.5%)となりました。

▶営業利益および経常利益

売上高の減少に伴う粗利益の低下により、営業損失は4,405百万円(前期は営業利益6,320百万円)、経常損失は4,400百万円(前期は経常利益6,574百万円)となりました。

(百貨店事業)

2020年4月に発令された緊急事態宣言およびそれに伴う行政の要請により、一部店舗の完全休業、阪急・阪神の両本店を含む店舗における食料品売場のみへの縮小営業を実施いたしました。5月下旬より、お客様と従業員の安全に最大限配慮した上で、全店での営業を再開しました。その結果、第1四半期連結会計期間の百貨店事業の売上高前期比は42.6%となりました。

第2四半期以降は、新型コロナウイルス新規感染者数の状況を考慮しつつ、順次、営業時間の変更や催事・販促施策の再開を行ってまいりましたが、オフィスへの通勤者の減少や、週末においてもシニア層やファミリー層を中心に都心への外出を避ける傾向が続いたことなどから、都心店の入店客数は低水準にとどまりました。一方、自宅から近距離に立地し食品の構成比が高い郊外店は比較的堅調に推移し、第2四半期連結会計期間の百貨店事業の売上高前期比は71.2%(都心既存店67.6%、郊外既存店85.9%)となりました。

以上の結果、第2四半期連結累計期間の売上高は138,187百万円(前期比57.7%)となりました。また、宣伝装飾費や委託作業費など経費削減に努めた結果、営業損失3,456百万円(前期は営業利益6,356百万円)となりました。なお、株式会社阪急阪神百貨店において、休業期間中の人件費や家賃、償却費など4,243百万円を特別損失に計上いたしました。

(食品事業)

総菜やベーカリーを製造する製造子会社は、卸先の休業や即食需要の落ち込みの影響を受けて減収減益となったものの、新型コロナウイルス感染症の拡大・外出自粛に伴う内食需要の高まりを受け、イズミヤ株式会社、株式会社阪急オアシスなどの既存店の売上高は順調に推移し、またイズミヤの非食品事業分割による再編効果も加わって、食品スーパー3社の営業利益は前期に対して52億円の大幅増益となりました。

※従来のイズミヤ株式会社は2020年4月1日付で3社に分割されており、前期の食品事業には衣料品・住居関連品販売を含む総合スーパーを運営する旧・イズミヤ株式会社の実績が含まれ、当期の食品事業は、食品スーパーのみを運営する新・イズミヤ株式会社の実績が対象となっております。

(不動産事業)

株式会社阪急商業開発では、運営する商業施設の休業および営業時間短縮、テナントの家賃減額などにより減収減益となりました。

※上記のイズミヤ株式会社の会社分割により、当期から不動産事業には、イズミヤ店舗における衣料品・住居関連品販売およびテナント管理を行う株式会社エイチ・ツー・オー 商業開発の実績が含まれており、当期の本セグメントの減益要因のひとつとなっております。

(その他事業)

食品宅配事業を行う株式会社阪急キッチンエール関西では、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い会員数が増加し、稼働率も向上した結果、売上高は前期比152.5%と伸長しました。しかしながら、ビジネスホテル「アワーズイン阪急」を運営する株式会社大井開発では、観光客および出張利用の大幅な減少に伴い減益となるとともに、持株会社である当社において、子会社からの受取配当金が減少したことなどにより、その他事業は減収減益となりました。

▶親会社株主に帰属する四半期純利益

休業者の人件費に対する雇用調整助成金等の助成金収入を2,394百万円を特別利益に計上する一方で、減損損失5,810百万円や、新型コロナウイルス感染症による損失5,022百万円など特別損失を合計11,468百万円計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純損失は10,102百万円となりました。

(百万円)

科目	金額	主な内容
特別利益	2,394	(対前年+1,537百万円)
助成金収入	2,394	雇用調整助成金等
特別損失	11,468	(対前年+8,838百万円)
減損損失	5,810	神戸阪急、高槻阪急
新型コロナウイルス感染症による損失	5,022	阪急阪神百貨店
固定資産除却損	565	
店舗等閉鎖損失	69	セルシー建て替え

2. 貸借対照表の状況

				(百万円)			
	19/9末	20/3末	20/9末		19/9末	20/3末	20/9末
現金及び預金	34,291	25,958	27,410	支払手形及び買掛金	58,165	43,917	41,551
受取手形及び売掛金	52,816	44,445	46,162	借入金及び社債	155,946	151,713	169,980
棚卸資産	32,836	29,688	25,891	負債合計	375,403	342,270	355,598
流動資産合計	132,596	112,116	110,830	株主資本	238,777	221,732	208,903
固定資産合計	522,684	474,788	485,079	純資産合計	279,877	244,634	240,311
資産合計	655,281	586,904	595,909	負債純資産合計	655,281	586,904	595,909

当第2四半期連結会計期間末の総資産は595,909百万円となり、前連結会計年度末に比べ9,004百万円増加しました。これは、投資有価証券が含み益の増加等により12,628百万円増加したことなどによるものです。

負債合計は355,598百万円となり、前連結会計年度末から13,327百万円増加しました。これは、短期借入金が18,500百万円増加した一方、未払金が3,941百万円、支払手形及び買掛金が2,365百万円減少したことなどによるものです。

また、純資産は240,311百万円と前連結会計年度末から4,322百万円減少しました。これは、親会社株主に帰属する四半期純損失10,102百万円の計上と配当金の支払2,472百万円などにより利益剰余金が12,883百万円減少した一方、その他有価証券評価差額金が9,095百万円増加したことなどによるものです。

自己資本比率は40.1%となりました。

3. 設備投資の状況

			(百万円)
	金額	主な内容	
百貨店事業	2,326	阪神本店建替工事	
食品事業	1,193	イズミヤ店舗改装、阪急オアシス新規出店	
不動産事業	1,074	イズミヤ店舗改装、阪急商業開発改装	
その他事業	3,788	エイチ・ツー・オー リテイリング(株)システム投資	
調整額	△ 34		
合計	8,347		

4. キャッシュ・フローの状況

(百万円)

主な項目	18/9	19/9	20/9
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,075	5,978	△ 2,796
税金等調整前当期純利益	2,399	4,801	△ 13,474
減価償却費	8,384	8,700	8,695
減損損失	305	11	5,810
売上債権の増減額(△は増加)	3,341	△ 3,064	△ 2,148
たな卸資産の増減額(△は増加)	929	1,401	3,689
仕入債務の増減額(△は減少)	△ 6,140	△ 1,272	△ 2,099
法人税等の支払額	△ 6,115	△ 3,374	△ 1,157
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 25,544	△ 17,453	△ 10,936
有形固定資産の取得による支出	△ 20,594	△ 14,522	△ 7,140
無形固定資産の取得による支出	△ 2,100	△ 3,808	△ 2,282
長期貸付けによる支出	△ 145	△ 1,622	△ 1,376
有形固定資産の売却による収入	1,060	3,538	77
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,639	△ 9,244	15,325
短期借入金の純増減額(△は減少)	-	11,000	18,500
長期借入金の返済による支出	△ 6,749	△ 20,137	△ 237
長期借入れによる収入	-	98	-
配当金の支払額	△ 2,469	△ 2,471	△ 2,472
営業CF+投資CF+財務CF	△ 36,259	△ 20,720	1,592
現金及び現金同等物の期末残高	30,821	34,291	27,410

5. 今後の見通し

連結業績予想

(百万円)

	第1・2四半期		第3・4四半期		通期	
	実績	前年比	予想	前年比	予想	前年比
百貨店事業	138,187	57.7%	196,812	84.3%	335,000	70.8%
食品事業	141,806	79.7%	138,193	78.5%	280,000	79.1%
不動産事業	33,267	801.1%	29,732	650.2%	63,000	722.0%
その他事業	22,354	77.5%	29,645	91.6%	52,000	84.9%
売上高	335,614	74.5%	394,385	88.3%	730,000	81.4%
百貨店事業	△ 3,456	-	△ 2,543	-	△ 6,000	-
食品事業	2,902	-	1,097	-	4,000	-
不動産事業	△ 318	-	△ 681	-	△ 1,000	-
その他事業	△ 1,428	-	△ 2,571	-	△ 4,000	-
調整額	△ 2,103	-	△ 896	-	△ 3,000	-
営業利益	△ 4,405	-	△ 5,594	-	△ 10,000	-
経常利益	△ 4,400	-	△ 5,599	-	△ 10,000	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 10,102	-	△ 11,897	-	△ 22,000	-

※セグメント別売上高は外部顧客への売上高

新型コロナウイルス感染症の影響は第3四半期以降も継続すると想定しており、通期業績は、減収減益を見込んでおります。

百貨店事業においては、第3四半期以降も、インバウンド売上は0ベース、国内売上も7～9月売上と同水準で一進一退が続く前提で回復は見通せず、売上・営業利益ともに減少を見込んでおります。

食品事業は、内食需要は底堅く、既存店売上高は前年並み、営業利益は、イズミヤ株式会社の非食品事業分割による再編効果も加わって、大幅な増益を見込んでおります。

不動産事業は、イズミヤ株式会社の会社分割に伴い、当期より株式会社エイチ・ツー・オー 商業開発の実績が含まれることから減益を見込んでおります。

また、厳しい市場環境を鑑み、より一層の構造改革とアフターコロナを見据えたビジネス構造への準備に取り組んでまいります。

以上のことから、連結の通期業績は、売上高は減収、営業利益および経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は減益を見込んでおります。

設備投資の予想

(百万円)

	第1・2四半期	第3・4四半期	通期	主な内容
	実績	予想	予想	
百貨店事業	2,326	5,582	7,908	阪神本店建替工事
食品事業	1,193	2,494	3,687	イズミヤ店舗改装、阪急オアシス新規出店
不動産事業	1,074	1,359	2,433	イズミヤ店舗改装、阪急商業開発改装
その他事業	3,788	2,216	6,005	エイチ・ツー・オー リテイリング(株)システム投資
調整額	△ 34	-	△ 34	
合計	8,347	11,652	20,000	

㈱阪急阪神百貨店の業績予想

(百万円)

	第1・2四半期		第3・4四半期		通期	
	実績	前年比	予想	前年比	予想	前年比
売上高	137,063	62.8%	195,106	84.1%	332,170	73.7%
営業利益	△ 3,377	-	△ 2,602	-	△ 5,980	-

㈱阪急阪神百貨店の店別取扱高予想

(百万円)

	第1・2四半期		第3・4四半期		通期	
	実績	前年比	予想	前年比	予想	前年比
阪急本店 ※1	68,050	54.7%	100,531	85.9%	168,581	69.9%
阪神梅田本店	11,310	47.5%	17,253	76.5%	28,563	61.6%
千里阪急	5,487	73.7%	7,269	93.6%	12,757	83.9%
高槻阪急 ※2	7,963	0.0%	9,079	88.8%	17,043	166.7%
川西阪急	5,360	73.4%	6,876	91.8%	12,236	82.7%
宝塚阪急	3,016	83.3%	3,421	91.3%	6,438	87.4%
西宮阪急	8,631	70.0%	12,245	96.8%	20,877	83.6%
三田阪急	408	63.4%	688	95.5%	1,096	80.4%
神戸阪急 ※2	11,379	0.0%	14,998	79.5%	26,377	139.8%
博多阪急	12,324	50.0%	18,575	75.7%	30,899	62.8%
阪急メンズ東京	3,226	52.2%	5,799	86.5%	9,025	70.0%
大井食品館	2,179	101.7%	2,088	87.1%	4,267	94.0%
都筑阪急 ※3	1,364	63.5%	1,404	58.3%	2,769	60.7%
あまがさき阪神	1,292	92.6%	1,307	85.6%	2,600	89.0%
阪神・にしのみや	1,900	88.8%	2,016	86.1%	3,917	87.4%
阪神・御影	209	83.7%	202	74.0%	412	78.6%
支店計	64,745	92.1%	85,973	84.6%	150,719	87.7%
全店計	144,105	66.0%	203,758	84.5%	347,864	75.7%
既存店計 ※4	124,762	57.1%	179,680	84.7%	304,443	70.7%

※1. 阪急メンズ大阪を含む

※2. 2019年10月5日営業開始。百貨店の売上高と専門店の取扱高(15,693百万円)の合計。

※3. 2020年1月19日1F営業終了

※4. 神戸阪急および高槻阪急を除く

イズミヤ㈱の業績予想

(百万円)

	第1・2四半期		第3・4四半期		通期	
	実績	前年比	予想	前年比	予想	前年比
売上高	67,016	62.7%	65,533	63.0%	132,549	62.8%
営業利益	1,993	-	700	-	2,693	-

㈱阪急オアシスの業績予想

(百万円)

	第1・2四半期		第3・4四半期		通期	
	実績	前年比	予想	前年比	予想	前年比
売上高	55,949	103.7%	55,000	99.2%	110,949	101.4%
営業利益	1,139	-	136	55.3%	1,276	-

6. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,958	27,410
受取手形及び売掛金	44,445	46,162
商品及び製品	27,732	24,352
仕掛品	348	141
原材料及び貯蔵品	1,607	1,398
未収入金	7,618	6,599
その他	4,740	5,054
貸倒引当金	△335	△287
流動資産合計	112,116	110,830
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	117,976	110,993
機械装置及び運搬具（純額）	2,964	2,890
土地	139,351	139,152
建設仮勘定	1,248	3,404
その他（純額）	11,624	10,117
有形固定資産合計	273,165	266,557
無形固定資産		
のれん	3,305	3,032
その他	15,862	15,785
無形固定資産合計	19,168	18,818
投資その他の資産		
投資有価証券	95,841	108,469
長期貸付金	7,026	8,255
差入保証金	70,425	70,361
退職給付に係る資産	60	338
繰延税金資産	10,008	13,440
その他	2,020	1,725
貸倒引当金	△2,927	△2,887
投資その他の資産合計	182,454	199,703
固定資産合計	474,788	485,079
資産合計	586,904	595,909

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	43,917	41,551
短期借入金	15,000	33,500
1年内返済予定の長期借入金	18,100	18,000
未払金	21,976	18,034
リース債務	910	905
未払法人税等	2,267	1,265
商品券	27,872	27,903
賞与引当金	3,953	3,164
役員賞与引当金	90	58
店舗等閉鎖損失引当金	78	66
ポイント引当金	1,951	2,227
資産除去債務	90	116
その他	21,930	23,077
流動負債合計	158,139	169,873
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	98,613	98,480
繰延税金負債	17,108	20,204
再評価に係る繰延税金負債	266	266
役員退職慰労引当金	164	172
商品券等回収引当金	4,233	4,670
退職給付に係る負債	13,993	13,064
長期末払金	287	148
リース債務	13,806	13,354
長期預り保証金	9,632	9,431
資産除去債務	3,165	3,188
その他	2,858	2,744
固定負債合計	184,131	185,725
負債合計	342,270	355,598
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,796	17,796
資本剰余金	92,650	92,639
利益剰余金	114,184	101,300
自己株式	△2,899	△2,833
株主資本合計	221,732	208,903
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	25,435	34,530
土地再評価差額金	124	124
為替換算調整勘定	△1,128	△1,432
退職給付に係る調整累計額	△2,846	△3,074
その他の包括利益累計額合計	21,584	30,148
新株予約権	1,312	1,255
非支配株主持分	4	4
純資産合計	244,634	240,311
負債純資産合計	586,904	595,909

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	450,710	335,614
売上原価	321,706	237,911
売上総利益	129,004	97,702
販売費及び一般管理費	122,683	102,108
営業利益又は営業損失(△)	6,320	△4,405
営業外収益		
受取利息	78	147
受取配当金	735	864
諸債務整理益	737	886
その他	531	376
営業外収益合計	2,083	2,274
営業外費用		
支払利息	381	392
商品券等回収引当金繰入額	581	733
持分法による投資損失	134	492
その他	732	651
営業外費用合計	1,829	2,269
経常利益又は経常損失(△)	6,574	△4,400
特別利益		
助成金収入	-	2,394
固定資産売却益	840	-
負ののれん発生益	17	-
特別利益合計	857	2,394
特別損失		
減損損失	11	5,810
新型コロナウイルス感染症による損失	-	5,022
固定資産除却損	622	565
店舗等閉鎖損失	367	69
固定資産売却損	863	-
事業整理損	764	-
特別損失合計	2,630	11,468
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	4,801	△13,474
法人税、住民税及び事業税	2,192	845
法人税等調整額	1,145	△4,217
法人税等合計	3,337	△3,371
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,463	△10,102
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	1,463	△10,102

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,463	△10,102
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,362	9,095
為替換算調整勘定	△54	△51
退職給付に係る調整額	220	△227
持分法適用会社に対する持分相当額	△295	△251
その他の包括利益合計	1,232	8,563
四半期包括利益	2,696	△1,538
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,696	△1,538
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失 (△)	4,801	△13,474
減価償却費	8,700	8,695
減損損失	11	5,810
店舗等閉鎖損失	40	14
のれん償却額	294	273
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△5	△87
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△299	△749
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△57	△31
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△1,134	△541
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△19	16
商品券等回収引当金の増減額 (△は減少)	127	436
店舗等閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	△503	△12
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	405	276
受取利息及び受取配当金	△814	△1,011
支払利息	381	392
持分法による投資損益 (△は益)	134	492
固定資産除却損	267	190
事業整理損	740	-
売上債権の増減額 (△は増加)	△3,064	△2,148
たな卸資産の増減額 (△は増加)	1,401	3,689
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,272	△2,099
未払消費税等の増減額 (△は減少)	154	430
商品券の増減額 (△は減少)	△2,248	37
前受金の増減額 (△は減少)	2,559	899
助成金収入	-	△2,394
新型コロナウイルス感染症による損失	-	4,535
その他	△1,616	△488
小計	8,983	3,149
利息及び配当金の受取額	772	995
利息の支払額	△373	△389
法人税等の支払額	△3,374	△1,157
助成金の受取額	-	2,394
新型コロナウイルス感染症による損失の支払額	-	△4,510
早期割増退職金の支払額	-	△3,279
保険金の受取額	19	-
災害損失の支払額	△49	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,978	△2,796

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△14,522	△7,140
有形固定資産の売却による収入	3,538	77
無形固定資産の取得による支出	△3,808	△2,282
無形固定資産の売却による収入	0	-
資産除去債務の履行による支出	△80	△20
投資有価証券の取得による支出	△1,166	△129
長期貸付けによる支出	△1,622	△1,376
長期貸付金の回収による収入	95	94
差入保証金の差入による支出	△458	△179
差入保証金の回収による収入	1,242	220
事業譲渡による支出	-	△150
事業譲受による支出	△648	-
連結の範囲の変更を伴う 子会社株式の売却による支出	△23	△47
その他	1	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△17,453	△10,936
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	11,000	18,500
長期借入れによる収入	98	-
長期借入金の返済による支出	△20,137	△237
自己株式の売却による収入	0	0
自己株式の取得による支出	△1	△0
配当金の支払額	△2,471	△2,472
リース債務の返済による支出	△475	△463
セール・アンド・リースバックによる収入	2,742	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,244	15,325
現金及び現金同等物に係る換算差額	△217	△140
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△20,938	1,452
現金及び現金同等物の期首残高	55,229	25,958
現金及び現金同等物の四半期末残高	34,291	27,410

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(たな卸資産の評価基準及び評価方法の変更)

一部の連結子会社における商品の評価方法は、従来、売価還元法による原価法（収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用していましたが、食品事業のシステム統合に伴い、算定に必要なデータの入手が可能となったため、第1四半期連結会計期間より売価還元法による低価法に変更しております。

なお、当該システムには過年度に関する必要なデータが蓄積されていないことから、この会計方針を遡及適用することは実務上不可能であるため、変更後の評価方法に基づく第1四半期連結会計期間の期首の商品の帳簿価額と、前連結会計年度の期末における商品の帳簿価額の差額を基に算定した累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首残高に反映しております。

この結果、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金が308百万円減少しております。なお、当該変更による当第2四半期連結累計期間の売上原価、各段階損益及び1株当たり情報への影響額は軽微であります。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り

当社グループでは、固定資産の減損や繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りにおいて、当第2四半期連結会計期間の末日時点で入手可能な情報に基づき実施しております。

新型コロナウイルス感染症による当社グループ事業への影響は、売上高減少等の影響が大きい百貨店事業において影響は依然残っており、会計上の見積りにおいては、今後1年程度直近と同水準で推移し、以降緩やかに回復するという仮定を置いております。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	百貨店 事業	食品 事業	不動産 事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
外部顧客への売上高	239,670	178,035	4,152	28,851	450,710	—	450,710
セグメント間の内部 売上高又は振替高	141	2,400	8,555	14,019	25,116	△25,116	—
計	239,812	180,435	12,707	42,871	475,826	△25,116	450,710
セグメント利益又は 損失(△)	6,356	△1,701	2,176	3,264	10,096	△3,776	6,320

- (注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△3,776百万円は、セグメント間取引消去であります。
 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

重要性に乏しいため、記載を省略しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性に乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性に乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

重要性に乏しいため、記載を省略しております。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	百貨店 事業	食品 事業	不動産 事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
外部顧客への売上高	138,187	141,806	33,267	22,354	335,614	—	335,614
セグメント間の内部 売上高又は振替高	138	4,114	5,264	10,176	19,695	△19,695	—
計	138,325	145,920	38,531	32,531	355,309	△19,695	335,614
セグメント利益又は 損失(△)	△3,456	2,902	△318	△1,428	△2,301	△2,103	△4,405

- (注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△2,103百万円は、セグメント間取引消去であります。
 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。
 3. 前第2四半期連結累計期間に食品事業に含まれていたイズミヤ株式会社の事業のうち衣料品・住居関連品販売およびテナント管理事業が、2020年4月1日付で株式会社エイチ・ツー・オー 商業開発に分割されたことに伴い、当第2四半期連結累計期間では、従来「食品事業」セグメントに含まれていた衣料品・住居関連品販売およびテナント管理事業の売上高31,839百万円(外部顧客への売上高29,721百万円及びセグメント間の内部売上高又は振替高2,118百万円)、セグメント損失△1,737百万円が、「不動産事業」セグメントに含まれております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

2020年4月1日に、当社の連結子会社であるイズミヤ株式会社の衣料品・住居関連品販売およびテナント管理事業を、会社分割により、同じく連結子会社である株式会社エイチ・ツー・オー 商業開発へ承継いたしました。

この結果、前連結会計年度の末日に比べ「不動産事業」のセグメント資産が27,271百万円増加し、「食品事業」のセグメント資産が同額減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「百貨店事業」セグメントにおいて、神戸阪急・高槻阪急について当第2四半期連結累計期間に5,810百万円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

7. 補足情報

連結

販売費及び一般管理費の状況

(百万円)			
科目	金額	前年比	増減
人件費	39,490	83.5%	△ 7,811
賃借料	16,578	83.0%	△ 3,386
宣伝装飾費	2,007	32.2%	△ 4,232
減価償却費	7,875	95.6%	△ 362
委託作業費	8,570	86.1%	△ 1,385
販売手数料	5,378	84.7%	△ 972
運搬費	7,343	95.7%	△ 328
その他	14,863	87.6%	△ 2,095
販売費及び一般管理費	102,108	83.2%	△ 20,575

営業外損益の状況

(百万円)			
科目	金額	前年比	増減
営業外収益	2,274	109.2%	+ 190
受取利息	147	188.1%	+ 68
受取配当金	864	117.4%	+ 128
諸債務整理益	886	120.2%	+ 149
その他	376	70.8%	△ 155
営業外費用	2,269	124.1%	+ 440
支払利息	392	102.9%	+ 11
商品券等回収引当金繰入額	733	126.1%	+ 151
持分法による投資損失	492	367.0%	+ 357
その他	651	89.0%	△ 80

特別損益の状況

(百万円)		
科目	金額	主な内容
特別利益	2,394	(対前年+1,537百万円)
助成金収入	2,394	雇用調整助成金等
特別損失	11,468	(対前年+8,838百万円)
減損損失	5,810	神戸阪急、高槻阪急
新型コロナウイルス感染症による損失	5,022	阪急阪神百貨店
固定資産除却損	565	
店舗等閉鎖損失	69	セルシー建て替え

㈱阪急阪神百貨店

経営成績

(百万円)

	金額	前年比	増減
売上高	137,063	62.8%	△ 81,280
売上総利益	31,247	59.7%	△ 21,067
(売上総利益率)	22.80%	-	△1.16pt
その他の営業収入	1,330	420.9%	+ 1,014
販売費及び 一般管理費	35,955	78.2%	△ 10,041
(販管費率)	26.23%	-	+5.17pt
営業利益	△ 3,377	-	△ 10,012
(営業利益率)	-	-	-

※ 2019年10月1日付でそごう神戸店及び西武高槻店の事業を株式会社エイチ・ツー・オー アセットマネジメントから株式会社阪急阪神百貨店へ移管

- ▶ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休業、営業時間短縮、催事・販促施策の自粛の実施
- ▶ 阪急本店の免税売上高前期比7%、構成比2%
- ▶ 人件費や賃料、減価償却費など合計4,243百万円を新型コロナウイルス感染症による損失として特別損失に計上

店別取扱高、入店客数

(百万円、千人、㎡)

	金額	前年比	入店客数	前年比	営業面積
阪急本店 ※1	68,050	54.7%	9,937	41.9%	98,761
阪神梅田本店	11,310	47.5%	6,285	40.6%	27,811
千里阪急	5,487	73.7%	1,811	75.6%	13,902
高槻阪急 ※2	7,963	0.0%	3,358	0.0%	38,638
川西阪急	5,360	73.4%	2,039	69.6%	15,528
宝塚阪急	3,016	83.3%	※5 -	-	6,148
西宮阪急	8,631	70.0%	4,365	66.1%	25,099
三田阪急	408	63.4%	※5 -	-	2,100
神戸阪急 ※2	11,379	0.0%	4,994	0.0%	42,361
博多阪急	12,324	50.0%	5,786	42.5%	41,835
阪急メンズ東京	3,226	52.2%	380	29.1%	11,378
大井食品館	2,179	101.7%	2,171	81.9%	2,042
都筑阪急 ※3	1,364	63.5%	966	53.9%	1,917
あまがさき阪神	1,292	92.6%	※5 -	-	2,855
阪神・にしのみや	1,900	88.8%	1,745	80.9%	4,998
阪神・御影	209	83.7%	1,978	81.2%	804
支店計	64,745	92.1%	29,598	82.4%	209,605
全店計	144,105	66.0%	45,821	61.0%	336,177
既存店計 ※4	124,762	57.1%	37,468	49.9%	255,178

※1. 阪急メンズ大阪を含む

※2. 2019年10月5日営業開始。百貨店の売上高と専門店の取扱高(7,041百万円)の合計。

※3. 2020年1月19日1F営業終了

※4. 神戸阪急および高槻阪急を除く

※5. 入店客数計測器を設置していないため

商品別取扱高

(百万円)

	金額	前年比	構成比
紳士服・洋品	10,117	54.9%	7.0%
婦人服・洋品	15,593	53.4%	10.8%
子供服・洋品	2,879	60.8%	2.0%
その他の衣料品	2,940	55.0%	2.0%
衣料品	31,530	54.6%	21.9%
身の回り品	24,753	56.3%	17.2%
家庭用品	3,644	54.2%	2.5%
食料品	48,721	83.1%	33.8%
食堂・喫茶	1,866	37.5%	1.3%
雑貨	25,496	56.6%	17.7%
サービス	553	44.2%	0.4%
その他	7,540	-	5.2%
合計	144,105	66.0%	100.0%

※. その他に神戸阪急・高槻阪急の専門店の取扱高(7,041百万円)を含む

月次取扱高前年比の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
阪急本店 ※1	14.1%	25.6%	78.1%	75.4%	70.5%	61.8%
阪神梅田本店	19.1%	27.3%	63.9%	68.1%	63.1%	44.2%
支店 計	41.8%	56.1%	115.4%	112.6%	116.7%	108.2%
全店 計	23.6%	35.9%	89.1%	86.8%	85.0%	73.0%
既存店計 ※2	19.5%	30.5%	77.5%	76.1%	73.1%	63.7%

※1. 阪急メンズ大阪を含む

※2. 2019年10月営業開始の神戸阪急・高槻阪急を除く

イズミヤ(株)

経営成績

	金額	前年比	増減	(百万円)	
				※前年比	※増減
売上高	67,016	62.7%	△ 39,908	102.6%	+ 1,685
売上総利益	17,587	63.6%	△ 10,045		
(売上総利益率)	26.24%	-	+0.40pt		
その他の営業収入	5,904	80.0%	△ 1,473		
販売費及び 一般管理費	21,499	58.7%	△ 15,103		
(販管費率)	32.08%	-	△2.15pt		
営業利益	1,993	-	+ 3,584	248.2%	+ 1,190
(営業利益率)	3.0%	-	-	-	+1.74pt

※分割後のイズミヤに相当する部門の前年実績との比較(参考値)

イズミヤ株式会社は2020年4月1日付で食品を販売する新・イズミヤ株式会社、衣料品・住居関連品の販売とテナント管理を行う株式会社エイチ・ツー・オー 商業開発、医薬品・化粧品・日用品を販売する株式会社CFIZ(持分法適用会社)の3社に分社化。

店舗数	(店)
合計	74
(前年差)	-

開閉店の状況

開店	-
閉店	浜田町店(兵庫県)

月次既存店売上高前年比の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	2Q累計
既存店	106.8%	106.1%	99.8%	103.5%	105.2%	100.5%	103.6%

※ 分割後のイズミヤに相当する部門の前年実績との比較

㈱阪急オアシス

経営成績

(百万円)

	金額	前年比	増減
売上高	55,949	103.7%	+ 1,991
売上総利益	15,041	106.6%	+ 937
(売上総利益率)	26.88%	-	+0.75pt
その他の営業収入	3,584	104.7%	+ 159
販売費及び 一般管理費	17,487	98.4%	△ 279
(販管费率)	31.25%	-	△1.67pt
営業利益	1,139	-	+ 1,376
(営業利益率)	2.04%	-	-

店舗数	(店)
合計	78
(前年差)	+ 1

開閉店の状況

開店	茨木駅前店(大阪府)
閉店	仁川店(兵庫県)

月次既存店売上高前年比の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	2Q累計
既存店	106.0%	103.3%	98.6%	101.8%	104.9%	98.5%	102.2%